

7月5日 (日) サムエル記上 12章	「主を畏れ、心を尽くし、まことをもって主に仕えなさい。主がいかに偉大なことをあなたたちに示されたかを悟りなさい」(24節)。これはエルサレムの民に対するサムエルの告別の辞。サムエルは、彼らが自分たちのために王を求めて主の御前に犯した罪が、いかに重大だったかを示された。その後、民はこれを守っていたのか、王サウルはどうか？
6日 (月) サムエル記上 13章	「サムエルはサウルに言った。『あなたは愚かなことをした。あなたの神、主がお与えになった戒めを守っていれば、主はあなたの王権をイスラエルの上にいつまでも確かなものとしてくださっただろうに』(13節)。サウルは主に聞くことなく、勝手な行動をして、民を弱らせた。サムエルはサウルに言った。あなたの王権は続かない。主は御心に適う人を求める。
7日 (火) サムエル記上 14章	「もし、『登って来い』と言え、登って行くことにしよう。それは、主が彼らを我々の手に渡してくださるしるしだ」(10節)。ペリシテ人との戦いで心が弱っていたイスラエルを助けようと、ヨナタンは、兵士600人を率いてペリシテ人の先陣を襲うことを実行する。彼は主に聞いていた。するとペリシテ人は恐怖に襲われ、同士討ちとなり大混乱となる。
8日 (水) サムエル記上 15章	「主の言葉がサムエルに臨んだ。『わたしはサウルを王に立てたことを悔やむ。彼はわたしに背を向け、わたしの命令を果たさない』(10-11節)。アマレク人を滅ぼし尽くせ、という神の言葉をサムエルはサウルに伝え、サウルはアマレクに勝利するが、アマレクの王アガグを生かし、牛や羊など上等なものは滅ぼし尽くさなかった。主に従えないサウルを見る。

9日 (木) サムエル記上 16章	「主は言われた。『立って彼に油を注ぎなさい。これがその人だ』(12節)。主はサウルをイスラエルの王位から退け、サムエルをエッサイのところに遣わした。彼はエッサイの長男に目を止めたが、主は彼を退け、一番末の息子を選ばれた。主は『心によって見る』と言われた。サムエルはエッサイの末の子ダビデに油を注いだ。すると主の霊がダビデに降った。
10日 (金) サムエル記上 17章	「主は救いを賜るのに剣や槍を必要とはされないことを、ここに集まったすべての者は知るだろう。この戦いは主のものだ」(47節)。ダビデはペリシテの巨人ゴリアトを石投げ紐と石一つで、撃ち殺した。主が遣わしたサムエルがダビデに油を注いでから、主の霊が激しくダビデに降っていた。少年ダビデが主に全き信頼を寄せていたことに心を留めたい。
11日 (土) サムエル記上 18章	「女たちは楽を奏し、歌い交わした。『サウルは千を討ち/ ダビデは万を討った』(7節)。ダビデがペリシテ人ゴリアトを討って帰ってきたとき、女たちが出てきて踊りながらこれを歌った。それを聞いたサウルは激怒し、ダビデをねたむようになる。自分の娘をダビデに与えるが、これはペリシテ人の手でダビデを殺そうと考えたからだ。人のねたみは醜い。
12日 (日) サムエル記上 19章	「彼(サウル)の上にも神の霊が降り、彼は預言する状態になった…」(23節)。ダビデに対する嫉妬と憎悪にかられたサウルは彼を殺そうと諮るが、「神の霊」がそれを阻み、サウルは預言する状態になる。預言とは神の言をあずかること。神の言を受ける時、人は神の御旨に動かされる者とされる。主日礼拝を通し、一人ひとりが「神の霊」に動かされる者とされて。